

平成30年度第5回秦野市行財政調査会（行革推進専門部会）会議概要

1 開催日時	平成31年1月24日(木) 午後1時30分から午後2時56分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎 5A会議室	
3 出席者	委 員	茅野部会長、小林委員、佐々木委員、西尾委員、山田委員
	事務局	行政経営課長、行政経営課課長代理、同課担当
4 議題等	議事 第3次はだの行革推進プラン実行計画平成29年度進行状況等評価結果報告書（案）について	
5 配付資料	次第 資料 第3次はだの行革推進プラン実行計画平成29年度進行状況等評価結果報告書（案）	

6 会議概要（要点筆記）

【行政経営課長】 平成30年度第5回秦野市行財政調査会行革推進専門部会をはじめます。本日は御多用の中、御出席いただきありがとうございます。

それでは、会議に入らせていただきたいと思います。

では、はじめに本日使用します資料の確認をします。

—資料の確認—

以上、お手元にお揃いでどうか。それでは、部会長に御挨拶をいただき、行財政調査会規則第6条第1項の規定により部会長が議長となりますので、進行をお任せしたいと思います。

引き続き進行をお願いいたします。

【部会長】 いよいよ最後となりまして、これで固める段階となりました。委員の皆様の御尽力の賜物だと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、本日の会議録の署名委員ですが、規定によりまして、部会長と部会長が指名する委員ということで、名簿の順にお願いしておりますので、今回は西尾委員にお願いします。

**議事 第3次はだの行革推進プラン実行計画平成29年度進行状況等評価結果
報告書（案）について**

【部会長】 それでは、議事 第3次はだの行革推進プラン実行計画平成29年度進行状況等評価結果報告書（案）について、事務局から説明をお願いします。

＜実行計画全体に関する評価＞

【事務局】 一資料説明（19ページまで）—

【部会長】

19ページまで説明がありました。御意見、御質問等承っていきたいと思います。御発言をお願いいたします。

【委員】

意見としてですが、改めて、説明を聞いて、気になった点がいくつかあります。10ページのところで、実行計画全体の評価が書かれている中で、達成率が、概ね80パーセントを越えているくらいで、概ね達成しているということが、述べられている中で、1箇所だけ、公共施設の再配置関係事業の改革項目について、平成29年度は97パーセント達成しているのに、累計だと44パーセントまで落ちています。この落ち方が気になっています。こういう落ち方は、数字が突出していますので、分析とか、なぜそうなったのかということを触れられても良かったのかなと思いました。

それから、14ページについてですが、本当は、自己評価と内部評価の結果について、それぞれの評価結果が何項目あったかということに加えて、なぜそうなっているのかということについての記述がされているといいかなと思いました。事実が述べられているだけなので、それをどう評価したらいいかということが分かりにくいので、せめて、表6-1、表6-2を見ると、概ね計画通りと計画通りを合わせると7割から9割くらいまで、概ね計画通り以上の成果を挙げているので、概ね順調にきているというような評価をしてもいいのかなと思いました。

また、自己評価と内部評価の言葉の使い方ですが、同じ意味に聞こえます。普通は、内部評価は自己評価のことと、それに加えて外部評価を行うのだと思います。

自己評価と内部評価は何が違うのかということが気になりました。ただ、中身を見ると、まず、自己評価で評価した上で、今後の方向性について検証しているのが内部評価と言われていて思っていますので、内部評価という言葉の使い方が合っていないのかなと思います。

今すぐに、どういった言葉がいいかは思い付かなかったのですが、もしかした

ら、言葉を変えたほうが分かりやすいのではないかと思います。

【事務局】

まず、再配置の遅れについては、計画の部分のずれこみ、遅れの部分でありますし、確かにおっしゃるとおり、どういうところが、どうなんだということについて、この会議の中でも、昨年は説明したような記憶があるのですが、今年はそういうところも触れられなかつたと、反省点としてあります。

ここについては、部会長とも調整しまして、明らかに数字の部分で分かるものについては、市民に見せるということでもありますので、少し例示も入れた方がいいのではないかと思いました。

内部評価についても、なぜそうなったかについて、少し具体的に、書けるといいかなと思いましたので、検討してみたいと思います。

また、自己評価、内部評価についてですが、自己評価は改革主管課の評価、内部評価は組織として市全体の評価としてという意味で使っていますが、確かに、傍から見ると、分かりづらいということが良く分かりましたので、今後、使い方も踏まえて、是非参考にさせていただきたいと思いました。

【委員】

確かに、前回も同じお話が出て、自己評価と内部評価については、説明文を入れるという話があったと思います。

【事務局】

17ページの自己評価・内部評価の区分のところに説明を入れるようにしています。

【部会長】

改革主管課という言葉を使っているのは、2つ以上の所属にまたがったときにどちらかという意味で使っているのでしょうか。

【事務局】

改革主管課については、ある事項について、直接的に推進すべき担当課という意味で使っています。

【部会長】

所掌が2つ以上に分かれたときは、どこかが改革主管課になるということですか。

【事務局】

代表、統括するところを決めて、改革主管課としています。

【部会長】

所管が一つであれば、執行課ということでよろしいですか。

【事務局】

そうです。

【部会長】

自己評価の自己というのは、執行権を持っている所属長の評価という意味だと思います。改革主管課という言葉は、行政改革課とか行政経営課のイメージになってしまうのだと思います。

【委員】

「所管課」とか「担当課」の方が、市民から見たら分かりやすいのだと思います。

【事務局】

広い目で見ると、市としては法人1つなので、全てが自己評価になるのだと思います。気をつけて少し整理をしたいと思います。

【委員】

一般的には、自己評価または内部評価の中の1次評価、2次評価のイメージだと思います。

【部会長】

行政庁は、基本的にずっと内部評価でやってきているので、自己評価と法人の中での監査部門での評価ということからすると、こういった表現になってしまうのかなと思います。

あと、お願ひですが、14ページの最初の2行のところには、「担当課の評価である自己評価と、府内組織での評価である内部評価」というように、自己評価と内部評価についての説明を簡単でいいので入れてもらえたならと思います。

【事務局】

ここに、説明を入れたいと思います。

【部会長】

説明は、あちこちに出ているのですが、本文の最初に説明があるといいと思います。

【部会長】

今さらですが、表の空欄が気になります。表5－1は、目標額が入っているので気にならないですが、表5－2とかは要らないかもしれません。

【委員】

なくてもいいとは思います。

【事務局】

このレイアウトは、空欄を取った形も見ていただいて、部会長と相談して決めさせていただきたいと思います。

【委員】

感想に近い話ですが、18ページのところ、「核心的な課題を有する」という言葉を変えたという説明がありましたが、言葉の趣旨は、このとおりだと思いますが、実行計画なので、なぜ実行できなかつたかというところの原因の特定ということが非常に重要になってくるのだと思います。それをどうあぶり出すのかというところが、結局、より実効性の高い実行計画にできるかにかかってくるのだと思います。表6－5あたりがその手がかりになってくるのだと思うのですが、この核心的課題をどのような形であぶり出していくのかとか原因の究明をどうしていくのかということを今後の課題として考えいくことを頭の中にとどめて置く必要があると思っています。

施設の話では、結局施設のあり方について理念というか構想というか青写真がないということが核心的な原因だということが、ひとつ例示としてあげていますが、ひょっとしたら、仮説ですが、例えば、部門による組織マネジメント上の何か問題があるかもしれないし、あるいは、各分野別の事業の特性上に何か問題があるかもしれないとか、構造的な問題もはらんでいるのではないかということも考えられます。そうすると、表6－5でいうと、現状推進から段々レベルダウンして進行強化に落ちてきているものなどは、ビジョンがないことが原因なのか、組織上の問題なのか、そういう属性的な問題をどうあぶり出すのかということを考えしていくことが、今後の課題になるのかなという印象を持ちました。

【事務局】

できたら、そういった趣旨を入れ込ませていただきたいと思います。来年度以

降は、中間年次になりますので、そういうた原因についても突っ込んだ形で、皆様にも御意見をいただきたいと思います。

<テーマ「補助金のあり方」に関する評価>

【事務局】 一資料説明（20ページから31ページまで）—

【部会長】

それでは、補助金の関係で御意見、御質問等承っていきたいと思います。御発言をお願いいたします。

【委員】

26ページの表現の確認ですが、「市民団体等に対する対価を必要としない一方的な支出」とありますが、これは市民団体等からの対価を必要としないという意味、市民団体等からの反対給付がないという意味でよいでしょうか。

【事務局】

はい、反対給付がないという意味です。そのように書いたほうがいいかもしれません。

【委員】

あるいは、「市民団体等に対する一方的な支出」としてもいいかもしれません。

【委員】

「補助金は」という主語を入れたほうがいいと思います。

【委員】

24ページから25ページにかけての運営費補助についてですが、運営費補助自体が悪いニュアンスになってしまっているように感じます。たぶん、運営費補助が何十年も続いているようなものは、問題があるのだと思いますが、運営費補助自体が全て悪いわけではないと思います。

むしろ、育てていくという点で、初期は運営費補助は必要で、それを段々、団体が自立していくように、工夫して補助や支援の仕方を考えることの方が、大事じゃないのかなと思います。

段階的に運営費補助を減らしていくのか、単に補助金を減らすのではなく、どうしたら団体が自立できるかということを一緒に考えて支援していくとか、そういうことを工夫していくということに繋がるような課題の書き方がいいので

はないかと思いました。

それから、28ページのところで、「アウトカム思考」という言葉を使っていますが、一般的には、「志向」の漢字を使うと思いますので、用語の使い方を確認していただければと思います。

それから、30ページのオのところで、「市民や団体の意見を取り入れた見直しを検討すべきである」とありますが、これは、見直しだけではないと思います。市民や団体とともに考えていくことも必要であるということはそのとおりなので、例示と項目名について、見直しに限定されているような気がしたので、そこは、もうちょっと広げたほうがいいと思いました。

【委員】

見直しという言葉を取ると広がると思います。

【事務局】

24ページについては、おっしゃるとおりですので、書き方を工夫したいと思います。また、アウトカムについても確認します。見直しの部分についてもおっしゃるとおりですので、見直しに限定されないような書き方にていきたいと思います。

【委員】

31ページの最後の項目は提言力（りょく）関連に見えます。

【委員】

31ページの提言イだけ、点線で囲んであるので、すごく強調されているのですが、項目を分けたからこのようになっていると思いますが、点線を取って、全部に【提言イ関連】と付けてもいいと思います。

【部会長】

提言力（りょく）に見えないようにするために、カタカナの前後に半角スペースを入れるとクリアになると思います。

【委員】

項目自体を1つの項目にまとめてしまってもいいのではないかと思います。3つに分けなくてもいいと思います。

【部会長】

26ページの「(5)補助金に求められること」の3段落目の3行目の「公共の

概念が、官が占有するものではなく、そもそも住民自身のものであることに立ち返る必要があることを念頭に、今後の補助金のあり方を考えていく必要がある。」とありますが、文が長いせいなのか、少し難しい印象があります。

【事務局】

「立ち返る必要がある」のところで、一度切って、「これを念頭に」といった形で繋いで、再度、部会長を見ていただきたいと思います。

【委員】

言葉としても、「官が占有する」とか「住民自身のもの」の部分が少し引っかかります。むしろ、公共は官だけで担うのではなくて、官と民とで協力しながらやっていきましょうということだと思います。

【事務局】

おっしゃるとおりですので、修正したいと思います。

<今後の行財政運営に向けて求められる考え方>

【事務局】 一資料説明（33ページから35ページまで）—

【部会長】

それでは、御意見、御質問等承っていきたいと思います。御発言をお願いいたします。

【委員】

34ページですが、「1 戰略的な事業の縮小・再整理」の最終段落で意味が分からぬところがあります。どこかというと、「これらの取組みは、行財政改革の位置づけでは解決が難しい」と書かれていますが、その理由が書かれていないので、ちょっと腹落ちしないというところです。

事務局の趣旨を踏まえて最後は修正してもらいたいとは思いますが、こういう趣旨なのかと思って提案ですが、この最終段落を2のところに持っていく、言いたいのはこういうことではないかと思います。行財政改革の観点だけで、事業や公共施設を縮小させていくと、むしろ持続可能な発展性が損なわれる可能性がある。だから、2段落以降に繋がっていくという流れにした方がすんなり通るのかなというのが、私個人の受け止め方と提案です。

もし、位置づけが難しいということで、1のところで書いておくのであれば理由も少し書いていただきたいと思います。

【委員】

関連して、確かに、行革の取組みを見てきて、進まなかつたり、限界があるのは、行財政改革だけでは越えているところがあるといった議論があつて、この文章が入ってきたのだと思います。

ですので、「行財政改革の位置づけでは解決が難しい」ではなくて、「行財政改革だけでは解決が難しい」という表現にするといいのではないかと思います。

「だけ」という言葉が意外と重要なかなと思います。

また、この文の位置ですが、少し前にある「行政区画の枠を超えて、事業や公共施設を捉える」というところとも絡んで、近隣自治体との話し合いとか、文化施設とかスポーツ施設のあり方の話も踏まると、もう行財政改革だけの枠ではないよというような話も念頭にあって、ここにも入ってきたかなと思います。2番がいいのか、1番がいいのか難しいところですが、私は1番の方で、全体の最後のまとめみたいなところにもなるので、やっぱり、見直しをずっとやってきて、どうも行財政改革として捉えていたのでは、解決が難しい、だから地域経営の課題として、総合計画に位置付けてということになるので、1番に置いてもいいかなと思いました。

「だけ」と置き換えるだけで、だいぶ分かり易くなるのかなと思いました。

私の意見を述べましたが、ここについては、お任せします。

次に、項目名と最後のところですが、「戦略的な事業の縮小・再整理」としていますが、縮小・再整理まで書くのかという気がします。縮小・再整理まで目指しているのだと思いますが、「戦略的な事業の見直し」ではダメかなと思っています。ただ、あいまいな言い方をしているとなたを振れないということもあるので、皆さんのお聞きしたいと思います。

ただ、もう少し、何か組み替えていかなければいけないというイメージはほしいのだろうという気はします。

【委員】

今、委員の言われた印象は持っています。ただ、表現としては、今のままでもいいかなという感じを持っています。ただ、条件がありまして、縮小・再整理だけだと、縮小均衡に陥って、結局、負のスパイラルに陥ってしまうなと思います。だから、2のところで、そのバーターとして、持続可能な発展可能性と言っているのですが、やや、国連のSDGsとかに寄ってしまって、やや弱いと思います。なので、もう少し、ここをバランスよく、事業縮小、再整理の先には、秦野らしい価値観をもって、地域づくりをやっていくとか、もう少しポジティブな目標設定をするとか、そういうことがほしいというのが、私の印象としてありました。

【委員】

縮小と整理は、どういったイメージですか。

【事務局】

おっしゃるとおりだと思うのですが、今後、人口減少、税収減、社会保障費の増に対応していく必要がありますが、今までの行財政改革は、やはり市民の皆さんの中のイメージは無理とかムダを省くイメージだと思います。要は右肩上がりの時代で、要らないもの、ムダなものは削っていこうというイメージが非常に強かったのだと思います。ただ、これからは、減っていく社会に合わせて、ムダではない事業ではあるけれど、皆で我慢していく、地域としてここは削っても、ここは充てていこうじゃないかという社会をやはり目指すべきだと思っています。

それを部会長も入っていただいている行財政経営専門部会で議論をしています。広く捉えればそういったことも行財政改革だと思うのですが、一般の人はたぶんそれを理解してもらえない部分があるというところを出したかったということです。それはもう、完全に施策の組み換えというか、ここを我慢してここに充てるという、縮めながらもそうしていくという部分で、戦略的な事業の縮小、再整理、あるいは見直し、そういうものが必要なんだろうというところのニュアンスと理解しまして、こういう表現をしています。

【委員】

その関連で、行財政改革をどういう風に捉えるか。たぶん削るだけの改革とか、減らすだけの改革とか、そういう改革では、先細りだし、解決できないよということに対して、もっと、創造的な要素とかを入れて、こういうことを含めた行財政改革が必要だということに、行財政改革自体を豊かな概念にしていくということもあるのかなと、行財政改革を切るだけの改革に貶めていいのかなという思いがあります。その辺の言葉の使い方は、どちらにしたらいいのかなという迷いがあります。「従来型の」とか「切るだけの」のとかそういう言葉をつけてもらえると、今までの行革とこれから役立つ行革の違いが出るのかなと思いました。

また、1の2行目から3行目に、「減分の配分」の括弧の中の言い方が、少しきつい印象があります。「税収の減少分をいずれかの分野に分配し、負わせること」と書いてありますが、行政が何か市民に負わせるというニュアンスにも取れてしまうので、「いずれかの分野で分担すること」とか、それくらいの言い方にしておいた方がいいかなと思います。

それから、2番のところで、もっと秦野らしさみたいなところを強調した方がいいだろうという意見が出ましたが、私もそのとおりだと思います。持続可能性もそうですが、どちらかというと秦野らしさみたいなものを強調した方がいい

かなと思いました。

それから、3番のところですが、「アウトカム思考による事業の実施・評価」とあるのですが、ここで、一番大事なのは、実施の前の段階、立案段階だと思います。立案、実施、評価、改善というサイクルがある中で、そもそも、効果ということを考えながら事業を立案しないで、効果のないものとかを立案してしまうので、その後のP D C Aを回してもあまり意味がないことになってしまうので、事業を立案する時に、ちゃんと効果のあるものを立案していきましょうよということが一番重要なアウトカム志向のメッセージなのかなと思います。

後段の方は、E B P Mのところで、立案のことも書いてあるのですが、表題のところと前半の話が、実施以降の話になっているので、立案を強調した書き方にした方がいいと思います。

それから、4番目のところは、一段落目の最後の表現で「市民にとってマイナスとなる取組みを進めるためには」という表現がきつい印象があります。そのとおりかもしれません、そうするとやはり先が暗い感じがするので、「場合によっては、市民にとってマイナスとなる取組みを含めて」くらいの、そういうことも避けられない中でやっていかなければいけない、でもそれだけではないというニュアンスを残したいなと思いました。

あと、5番のところで、I O Tを使うときの「O」は、小文字を使うと思います。また、1段落目の最後のところですが、「先行事例を検証し、効果の確認できるものについては、積極的に取り入れていくこと」とありますが、積極的といいながら、消極的に感じます。新しい分野ですので先行事例はないので、もっと自分たちで挑戦して開拓していくというような、そういうニュアンスを出してほしいなと思いました。

【部会長】

委員の皆様から御意見ありました1番のところの表現ですが、強調しなければいけないところなのですが、一番強調しなければいけないのは、これまでの行政改革の延長の中に、これから行政改革はないのだということだと思います。先ほど、委員が使われた「縮小均衡」という言葉などを、もう少し入れた方が分かり易くなるなと思いました。

また、戦略的なという言葉で逃げてしまった印象がありまして、戦略的な事業の縮小と再整理だとイメージとして、これまでの行財政改革をさらに、その延長線上で進めていくっていうような捉えられ方をしてしまいかねないと思いました。

その辺を含めて、もう一度表現を練っていただきたいと思います。私としては、縮小・再整理を残すか、見直しに変えるか、については、皆様の御意見をいただかないと、事務局にお願いしますというのは厳しいと思います。

【委員】

今、まさに部会長がいわれたように、このままでは、戦略的にさらに従来型を進めるというニュアンスに受取られるおそれがあると思います。

戦略的という言葉にいろいろな意味を込めているのだけれど、それが、伝わりにくいで、戦略的な事業の見直しの方がまだいいかなと思います。

【委員】

戦略的な事業を縮小するわけではないですね。

【事務局】

秦野らしさのある施策を、そこに、いかに他のところを削りながら投資していくということを、我々としては本当は、総合計画に体系的に取り入れてほしいというのが思いとしてあります。それを例えれば、進行管理については、今後、こういう行革の中で行っていくというのであれば、いいフレームになるのかなと思います。

ただ、事業の見直しといいますと、単一事業の見直しのような印象もあるのかなという思いもあって、我々としては、市全体の事業のバランスと分野を見ながら、組み換えあるいは縮小、縮小しつつもどこか拡大するとか、そういういたニュアンスを出したいと思っているところです。

確かに、縮小と書いてあると全て縮めてしまうイメージもあるなとは思います。ですので、見直しとか、改めるというニュアンスも必要かなという思いもあります。

【委員】

縮小を取ってしまって、再整理とするのでもいいかもしれません。

【委員】

再整理という言葉は、どういう意味でしょうか。縮小と再整理を同じような意味で使っているのかなとも思えます。それだと、戦略という言葉に対して、一方の側面しか言っていないと思います。

縮小していくところと、力を入れていくところを合わせて戦略的というのだと思います。

【委員】

先ほど、「縮小・再整理」でもいいのではないかと言いましたが、私も「見直し」でもいいと思うのですが、「戦略的な」という言葉が「縮小・再整理」にか

かつては縮小・再整理は戦略的であるということをここで言っているわけです。そうだとするとやや強いということは確かに言えると思いますので、「見直し」でいいのではないかと思います。

もう一つの考え方としては、市の戦略的な経営のための、事業の縮小・再整理みたいな書き方であれば、それでもいいかなとも思いますが、その辺の判断はお任せしたいと思います。

【事務局】

今まででは、行革は、これはムダだから削っていくというところで、市民理解を得つつ進めてきた状況もあると思うのですが、これからは、必要なものだけれど、我慢してくださいといった時に、やはり、そこには、一つ戦略性というのも必要なのだと思います。今までのように対立型では難しくて4番のコンセンサスのところがあるわけですが、伸ばすところも考えながら縮むところも皆で考えていくというような戦略性が行政にも必要なのかなというところは非常に感じているところです。そういうニュアンスで戦略的に入っています。

事務局で考えさせていただいて、部会長と再度調整をさせていただければと思います。

組み直しも少し必要かと思います。

【部会長】

短い言葉がいけないような気がします。委員が言われたように、「戦略な行政経営を進めていくための整理・縮小」とか、そういった言葉を入れるだけで全然違うと思います。

確かに、見直しという言葉も言おうとしていることと違うような気もするし、今までいただいた意見を踏まえて、再調整したいと思います。

【委員】

「コンセンサスをデザインし」という言葉が表題にもなっていますが、少し、分かりにくい印象があります。市民とのコンセンサスを企画、運営して問題解決にあたるというような意味を込めてデザインという言葉にしているのだと思いますが、ちょっとハードルが高い言い方かなと思います。表題にもなっているので、コンセンサスをデザインするというのは、どういうことですかと聞かれる気がして、括弧書きするなどした方がいいのではないかと思いました。

それから、5番のところで、まず、「A I等の活用で現在の行政サービスを代替することなどもさらに進化する可能性がある」としていますが、「代替する可能性がある」くらいでもいいのではないかと思います。

次に、「新たな社会構造の中で、改めて、行政が担うべきこと、あるいは職員が担うべきことについても検討していく視点も重要である。」としていますが、A I 等の活用と繋がらなかったのですが、説明を聞いて理解したのですが、言いたいのは、要するに、A I を活用するにしても逆に、A I ではなくて、人がやるべきこともあるのではないか、そういうこともちやんと見ていくよということが分かったので、例えば、「A I 等だけではなく、改めて、職員が直接担うべきことについても検討していく視点も重要である。」といったような書き方にした方が、意味が伝わるのかなと思いました。

【事務局】

コンセンサスの部分については、そういう場というか、空気を意識したニュアンスで使いたいなと思っていまして、注釈を加えるなりしたいなと思いました。

A I の部分は、まさに言うとおりですので、人とA I の分担をこれから見直す必要があるというところを出したかったので、もう少しシンプルな言い方の方が伝わるかなと思いましたので、そこは、整理をさせていただきたいと思います。

【部会長】

こここの表現についてはよろしいでしょうか。

【委員】

この間、今年のグーグルのI/Oといって、開発者向けの技術発表会があったのですが、グーグルが今、スピーカーでコマーシャルをやっていると思いますが、あれのエージェント、機械のA I が美容室に電話をかけて、予約をとるということをやっていましたけれど、もう人間と区別が付かないですね。すごいと思います。最近のビッグデータの使い道というのは、びっくりします。

情報化の技術は、行政のツールとして使うんだという議論がいっぱいあって、インターネットのときもありましたが、インターネットの技術を行政のツールとして使おうという事実はありませんよね。メールとか広い範囲の話なので。だから、今、委員が御指摘になられたような書き口でよろしいのではないですか。構造も変わるでしょうし、今、ルーマン社会学みたいなことも起こっているのだと思います。その機能を代替していくということが起こっていくのだと思います。

小さな小売店舗などでは、システムが入れられないから、どうするかというと、グーグルで電話をかけさせてしまうというのは、本当にびっくりしますよね。

「グーグル2018 I/O」で検索に引っかかってくると思います。そこにビデオが出てきますから、是非、御覧いただくといいかなと思います。

そのほかにも技術満載です。そのエージェントは、失敗の方も出すのですけれ

ど、うまく予約が取れないと、「じゃあ、また今度にするわ」と言って切るんです。なかなかやるなと思いました。滞納整理なんかも人間からかかってきたと思っていたら、機械だったなんてこともあったりするのだと思います。相手が怒鳴っても怒らないですからね。

【事務局】

人間が、コンピュータに使われて、荷物運びをやるようになるのでしょうか。

【委員】

よくそういう話がありますが、それはまだまだないと思います。大脳の仕組みは全く分かっていないので、今は、パターンが認識できるだけだから小脳ぐらいの感じですかね。パターンだけでもそういう風になるのだから怖いですよね。

そういう外側から、きっとA I の場合は、インターネットもそうですけど、行政の外側から変わってくる構造なんだと思います。

【委員】

今、御指摘のあったコンセンサスデザインという言葉は、私も使っているのですが、実は造語でして、正確に言うとコンセンサスビルディングのプロセスをデザインするということです。それを縮めて、あまり今まで使われてない言葉だったので使っているのですが、あまり一般的ではないので、やはり見出しにするのは違和感があるかなと思います。市民との合意形成とか協働を重視するとか、そのようなことでもいいのかなと思いました。

【委員】

括弧で説明を入れることでいいと思います。

【事務局】

単語としては、面白いというか、インパクトのある言葉ですので、役所に向けても、こういう言葉を出していくのもいいのかなと思っています。

【部会長】

インパクトはありますね。

【事務局】

説明を入れるようにしたいと思います。

【部会長】

附属資料ですが、最後に「等」が付いていますが、これは何を表しているでしょうか。

【事務局】

意味を確認します。必要がなければ削除します。

また、本日いただいた意見については、最終調整を部会長と事務局に任せていただいてよろしいでしょうか。

【部会長】

全体を通して、何かありますでしょうか。

無いようでしたら、事務局から話があったような形で調整させていただきたいと思います。また、途中で何かお気付きの点がありましたら、反映したいと思いますので、事務局へ御連絡いただけたらと思います。

それでは、議事は、ここまでとします。

その他で何かありますでしょうか。

【事務局】

部会は、今回が最後になります。昨年度に引き続き御意見いただきましてありがとうございました。

市長への報告会につきましては、部会長と市長の日程調整の上で、開催したいと思います。日程が決まりましたら、皆様に御案内をしますので、御都合が合えば、是非、御出席の方をお願いしたいと思います。

【部会長】

長い間、御意見をいただきありがとうございました。

— 閉会 —